

事務事業評価表

○基礎情報

課名		病院総務課	作成責任者
施策目標	21	効果的・効率的に病院を経営する	田渕 明子

常勤職員		常勤職員以外			総従事者
管理職	左記以外	再任用短時間	会計年度任用職員	派遣職員	総人工
1 人	12 人	2 人	7 人	0 人	20.87 人

時間外勤務時間	
総時間	一人あたり月平均
6,281 時間	43.6 時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の 現状値	目標値 (R2年度)	実績値		
			H30年度	R元年度	R2年度
経常収支比率	90.70%	100.0%以上	91.8%	99.5%	100.9%
医業収支比率	87.1%	97.0%以上	89.7%	91.3%	81.9%
病床利用率	70.9%	83.0%以上	74.3%	75.1%	64.4%

(施策のねらい)

1	経営健全化による安定した病院経営
2	効果的・効率的な医療機器の整備
3	0
4	0
5	0
6	0

(評価の見方) **S** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった

C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める

Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった)

A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった

D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない

実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(令和2年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)											Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	R元予算(円) R元決算(円)	R2予算(円) R2決算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 どうなったか(生ま (対象) (手段・方法) れた成果・効果)	事務事業の指標	R2目標値	R2実績値	評価	取組時間	事務改善	休・廃止
1	市立病院の医療機器に関する事務	2	1.45	特別	194,880,000 ----- 151,168,847	132,047,000 ----- 130,387,242	各科から提出があった、医療機器等購入希望調査表を元に、医療機器等整備委員会にて検討をおこない、整備が必要な機器の優先順位付けを行った。結果、今後の必要性やコストを意識した購入を行うことができた。	医療機器等の計画的な購入	医療機器等の計画的な購入のため、翌年度の調整及び購入計画の策定を行う。	翌年度に購入するための調整は行えたが、高額医療機器についての購入計画の策定には至らなかった。	C	変動なし		
2	市立病院の建設改良に関する事務	1	0.43	特別繰越	521,449,392 ----- 450,400,312	367,050,000 ----- 108,201,700	令和2年度については、耐用年数を超えて使用していた空調設備、非常用発電設備の更新工事をおこなった。入札不調に伴い本館改修工事の着工が遅れていたが、令和3年3月に契約をおこなうことができた。	各年度の事業計画の達成率	100%	29%	C	増加		
合計					R2予算(円) ----- R2決算(円)	499,097,000 ----- 238,588,942								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課はいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)	
<p>病院総務課の第4次実施計画の事業は23事業あり、うち政策的事業は2事業である。政策的事業の評価結果は、「市立病院の医療機器に関する事務」及び「市立病院の建設改良に関する事務」がともにC評価であった。</p> <p>これらを指標の達成度及び事業の実施効果を見ると、「市立病院の医療機器に関する事務」については、経営状況を鑑み、翌年度に購入するための調整は行えた。購入計画については策定に至らなかったため、引き続き次年度も行う。「市立病院の建設改良に関する事務」については、耐用年数を超過して使用していた空調設備、非常用発電設備の更新工事を行うとともに、入札不調に伴い遅延していた病院本館改修工事については、令和3年3月に契約を締結することができた。</p> <p>職員の時間外勤務は、総時間で6,281時間、一人あたりの月平均43.6時間であり、令和元年度の総時間と比べて2,554時間、一人あたりの月平均で9時間減少に転じた。市立病院では通常の病院運営を継続しながら神奈川モデル認定医療機関として新型コロナウイルス感染症について対応していくこととなったため、病院内のハード面、ソフト面含めた環境整備に関連する業務が大幅に増加したが、課内業務の見える化に向けた電子共有フォルダの整理を始めとした事務執行の根幹となる業務の整理等により事務効率の推進が図られたと考えられる。今後も継続して業務の見える化を具体的な手法で推進し、組織としての管理体制を構築していく。</p>	

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は-)	事務改善の内容
	-	-

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は-)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
	-	「市立病院の医療機器に関する事務」及び「市立病院の建設改良に関する事務」については、ともに病院事業に不可欠であり、休・廃止の検討はできないため。